

踏み跡 <My Mountains>

九州(脊振山地)

金山から三瀬峠へ

No.185

福岡市の西南部に住んでいると、いやでも毎日目に入ってくる脊振山地。

福岡県と佐賀県の県境に並び、東から脊振山(せふりさん)、鬼ヶ鼻岩、金山、城ノ山、三瀬峠、井原山、雷山(らいざん)と続き、西端は女岳、浮嶽と連なり十防山(とんぼうやま)を最後に唐津湾に落ちる。海拔 1000m を越えるのは脊振山だけで、ほかはそれ以下の山ばかり。高さとしてはさほど驚くほどのものではないと思うが、目の前は玄界灘、特に冬になると大陸からの季節風をまともに受けて、立派に雪を付ける。福岡に住みなれてくると、これらの山の景色で天候の予測ができるようになってくるので、一度も目を向けない日はまずない。

そして、毎日見ているうちに自然と登ってみたいという気持ちが出てくる。

金山が一番近い拠点である国民宿舎千石荘に車を置いて、この山脈への第一歩を始めてみようと言う計画を立てた。

昭和55年2月16日

間近な山なので出発は遅くても問題ない。8時40分に愛車で出発。国道263号線で室見川を遡り、石釜から国民宿舎千石荘へ。自宅を出てから30分で到着。

八王子方面から西丹沢に入っていく時の景色によく似て、初めて来たのに懐かしさを感じる。駐車場に車を置いて、身支度を整え9時30分に出発。

途中で坊主ヶ滝に立ち寄って一息ついて、花乱の滝からの道と合わせて後5分ほどで金山山頂(967m)に到着。11時35分、家を出てからわずか3時間ほどでもう足首を没する積雪の山頂に立っている。

(写真左：金山頂上 写真右：金山頂上から佐賀県方面を望む)



福岡県と佐賀県の双方を同時に見下ろせるスポットを探して、景色を楽しみながらの昼食。空が澄み渡っていれば、北に玄界灘、南に有明海を望むことができるはずだが、残念ながら遠くは霞んでいる。

ひときわ目立つのが北山(ほくさん)ダム。さらにその先に視線を送ると、小さな山が幾重にも重なって美しく広がっている。中でもどっしり構えた真っ白な天山(てんざん)が彦岳を従えてひときわ目立つ。有明海は期待に反して薄霞の中。佐賀平野、かすかに光る筑後川と早津江川。稜線に沿って東西に目を走らせると、西は井原山、雷山の雪の白さが際立っている。さらに西へたどれば東シナ海、中国大陸。海拔 1000m にも満たぬ山がこれほどに雪を抱いている理由もうなずける。

12時25分出発、稜線を北西へ進むべく金山の南面を巻くように下る道に入ったら、膝を没するほどの積雪、ラッセルしながら歩くようなところさえある。

城ノ山(849m) 13時35分。さらに北西へ進むとカヤトの尾根は徐々に高度を下げるようになり、国道263号線が山越えする三瀬峠(600m)に到着、14時20分。誰もいない冬の峠、あばら家の陰で用を足し、後は下るだけなのでゆったりと休憩。休みながら地図を眺めていたら、峠から井原山方向へ少し進むと693.7mの三角点(無名峰)があるのに気がついた。このまま下っても少々物足りない気もするので、このピークを

踏み跡 <My Mountains>

踏んでから下山しようということになり、再び雪が深い稜線を北西へ。

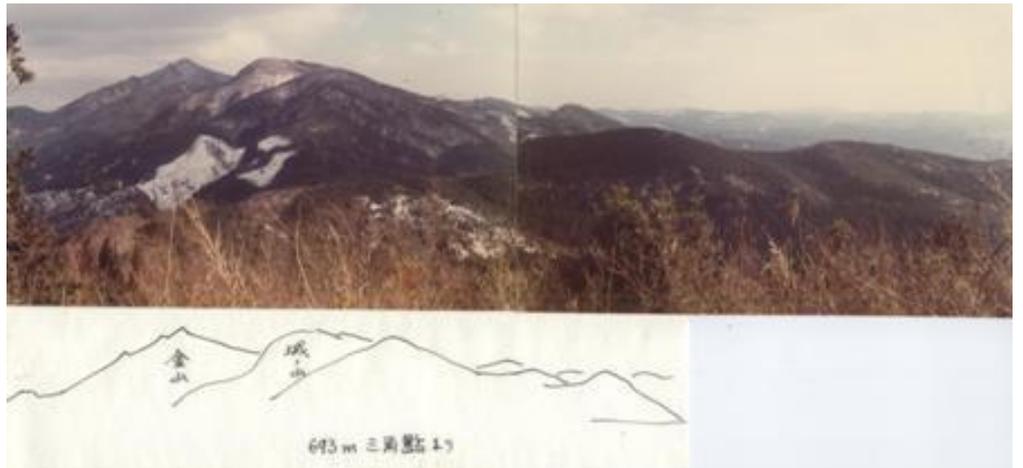
無名峰三角点で20分の休憩（右写真）の後三瀬峠へ戻り、国道を下山。

27のヘアピンカーブがある国道を下っていたら、途中で峠から下ってきた小型トラックが乗せてくれ、だいぶ時間的に稼ぐことができた。

おかげでアスファルト道路の長丁場で足の裏を痛

めずに済んだ。石釜から千石荘までまた急坂を登り返し、駐車場に16時45分に帰着。登山靴を運転用の靴に履き替えて17時に出発。30分後にはもう自宅。

こんなに近いところに、滝あり雪あり眺めありの山がある。うれしい環境である。福岡の山もなかなか面白そうだ。



以上

